

主体的に表現の工夫をして歌う生徒の育成 ～ 〔共通事項〕を根拠につくりあげる合唱の指導を通して ～

目 次

I 研究の概要

1	研究主題	3	1
2	主題設定の理由	3	1
3	研究の目的	3	2
4	研究仮説	3	2
5	研究の全体構想	3	3
6	研究経過	3	4

II 研究の実際

1	本研究についての基本的な考え方	3	4
	研究主題のとらえ方	3	4
2	〔共通事項〕の認識に関する生徒の実態	3	5
3	研究内容	3	6
(1)	〔共通事項〕について3年間を見通した指導内容の明確化	3	6
(2)	〔共通事項〕の定着を図るための教具を用いた指導の工夫	3	8
(3)	比較聴取を用いて音楽を形づくっている要素の理解を深める指導方法の工夫	3	8
(4)	音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫	3	9
4	授業実践による検証と考察	3	9
(1)	検証授業Ⅰ	3	9
(2)	検証授業Ⅱ	3	10
(3)	検証授業Ⅲ	3	13
5	研究内容の分析と考察	3	15
(1)	〔共通事項〕について3年間を見通した指導内容の明確化について	3	15
(2)	〔共通事項〕の定着を図るための教具を用いた指導の工夫について	3	17
(3)	比較聴取を用いて音楽を形づくっている要素の理解を深める指導方法の工夫について	3	18
(4)	音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫について	3	19

III 研究の成果と課題

1	成果	3	20
2	課題	3	20

《参考文献》	3	20
--------	---	----

研究実践学校 宮崎市立大塚中学校
研 究 員 福 山 光 代

I 研究の概要

1 研究主題

主体的に表現の工夫をして歌う生徒の育成

～〔共通事項〕を根拠につくりあげる合唱の指導を通して～

2 主題設定の理由

情報化、国際化が進展する今日、子どもたちは、様々な情報に対応する力や多様な価値観の中で自らを確立していくことが求められている。そのような中、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になっている。

新学習指導要領では、前回と同様「生きる力」という理念が継続され、学校では「確かな学力」を基盤とした「生きる力」を育むための指導の在り方が問われている。その中で、音楽科ではすべての音楽活動の支えとなる指導内容をまとめた〔共通事項〕が設定された。〔共通事項〕とは、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じたり、音楽に関する用語や記号などについて音楽活動を通して理解するために新たに示された内容である。これは、音楽科における生涯にわたって必要な基礎・基本となる学力であり、それらを基にして指導を行うことが充実した音楽活動につながるものである。

これまでも、音色・リズム・速度・旋律・強弱・形式・構成といった音楽を形づくっている要素に関わる内容については、題材ごとの指導事項として挙げられていた。しかし、指導者側の主観的な考えに頼った指導であったり、生徒が曲を聴いたり演奏したりして感じ取ったことや考えたことが、音楽を形づくっている要素を根拠とした思いであるということを意識付ける指導がなされていなかったりした。そのため、生徒は自分の感じた思いや考えが、何となくそう思うといったような曖昧な形でしかとらえていなかった現状がある。

そこで、今回設定された〔共通事項〕を、指導目標や指導内容に明確に位置付けることで、生徒が〔共通事項〕について理解し、それを根拠に感想を述べたり、表現活動に生かしたりしながら主体的に音楽活動に関わっていくことが求められるようになった。このことにより、思考力、判断力を働かせて、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成が期待できるものである。

研究実践校の宮崎市立大塚中学校では、教育目標を「心豊かで創造力のあるたくましい生徒の育成」とし、日々の指導に取り組んでいる。生徒は落ち着いた態度で学校生活を送っており、音楽の授業に関しては一生懸命に取り組む姿勢が見られる。特に本校が大変盛り上がる行事の一つである、合唱コンクールにつながる歌唱の授業に関しては、意欲が高く、活動も熱心である。

しかし、学級での練習の様子を見てみると、一生懸命取り組んではいるものの、互いにアドバイスし合う場面での発言の内容が、音楽的な要素を基にしたものではなく、改善すべき点が曖昧なまま、ただ何度も繰り返し歌ったり、大きな声が出ていけばよいといったような表面的な部分だけの練習になっている実態があった。それは指導する側が、演奏の変化が感じられるのは、〔共通事項〕の働きによるものだということを意識して指導してこなかったためだと考える。そのため、生徒は指導された通りに歌おうとはするが、主体的に歌い方の工夫を考えて

曲を仕上げていこうという姿勢には至っていないという実態があった。

そこで、曲の感じや雰囲気が大きく変わるのは、音楽を形づくっている要素の働きによるものだという事に気付かせ、それらの要素の働きに着目して表現の工夫をすることが、魅力ある演奏につながるということを実感させる必要があると考えた。また、音楽を形づくっている要素に対する興味・関心をもたせ、その働きについて理解させることができれば、要素を基にした具体的なアドバイスを交わし合う練習ができるようになるのではないかと考えた。そのことにより、表現の工夫をする楽しさや魅力を感じるようになり、生徒が自ら工夫をして歌いたという気持ちが高まり、そのことが主体的な取組へとつながっていくものと考えた。

本研究では、「主体的に表現の工夫をして歌う生徒の育成」を主題とし、副題を「〔共通事項〕を根拠につくりあげる合唱の指導を通して」と設定した。

まず、〔共通事項〕についての理解と定着を切り口として、研究を行っていく。ただし、〔共通事項〕については、様々な要素があるため、1年間の学習のみで理解と定着を図るのは難しいと考え、3年間を見通した系統的な指導を図っていく必要があると考えた。本研究においては、〔共通事項〕について3年間を見通した指導内容を明確にすることで、〔共通事項〕についての理解と定着を図りたい。

また、さらに次の3点について研究していくこととした。

- (1) 〔共通事項〕の定着を図るための教具を用いた指導の工夫
- (2) 比較聴取を用いて音楽を形づくっている要素の理解を深める指導方法の工夫
- (3) 音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫

以上の研究を推進していくことで、〔共通事項〕を根拠にして、自ら表現の工夫をして歌う生徒が育成できると考える。そのことにより、音楽科の目標である豊かな情操を養い、生涯主体的に音楽に関わっていく姿勢を育てることになると考え、本主題を設定した。

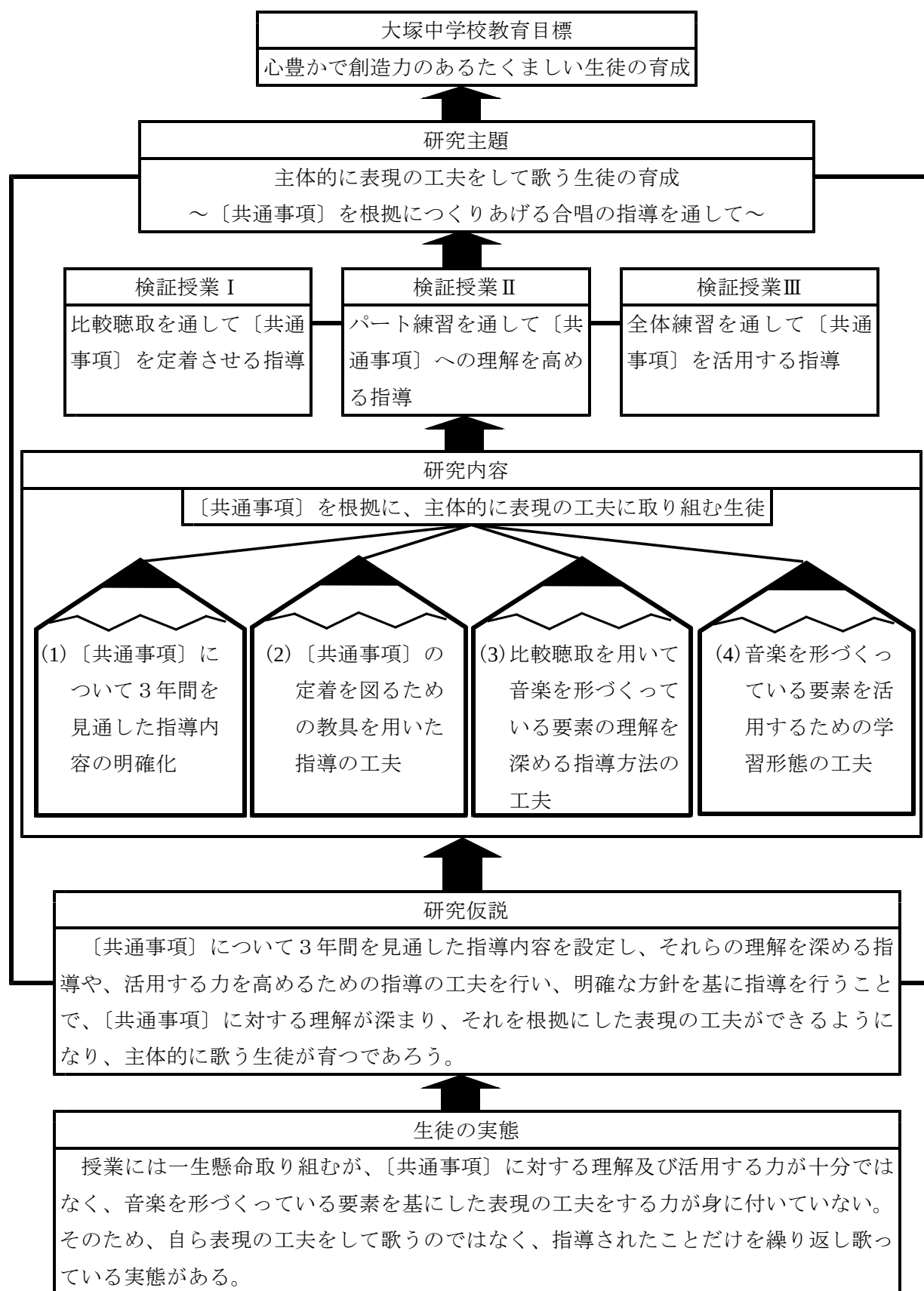
3 研究の目的

生徒が主体的に表現の工夫ができるようにするために、〔共通事項〕を理解及び定着させる指導方法や、音楽を形づくっている要素を活用する力を高めるための指導方法について究明する。

4 研究仮説

〔共通事項〕について3年間を見通した指導内容を設定し、それらの理解を深める指導や、活用する力を高めるための指導の工夫を行い、明確な方針を基に指導を行うことで、〔共通事項〕に対する理解が深まり、それを根拠にした表現の工夫ができるようになり、主体的に歌う生徒が育つであろう。

5 研究の全体構想



6 研究経過

月	研 究 内 容
4	研究主題・副題の設定、研究計画の立案、理論研究、文献研究
5	理論研究、文献研究、実態調査方法の検討（実態調査内容検討）
6	理論研究、文献研究、実態調査（大塚中学校）及び分析 検証授業の指導案作成・教材作成 検証授業Ⅰ（大塚中学校）、事後研究
7	検証授業Ⅰの分析、考察、まとめ
8	検証授業Ⅰの分析、考察、まとめ、中間発表、検証授業Ⅱの指導案作成・教材作成
9	検証授業Ⅱ（大塚中学校）、事後研究、検証授業Ⅲの指導案作成・教材作成
10	検証授業の指導案作成・教材作成、検証授業Ⅲ（大塚中学校）、事後研究 検証授業（3回分）分析・考察、理論研究、研究報告書の作成
11	理論研究、研究報告書の作成
12~2	研究のまとめ、研究報告書の作成、発表原稿作成
3	研究発表準備、研究発表

Ⅱ 研究の実際

1 本研究についての基本的な考え方

(1) 研究主題のとらえ方

ア 「主体的」とは

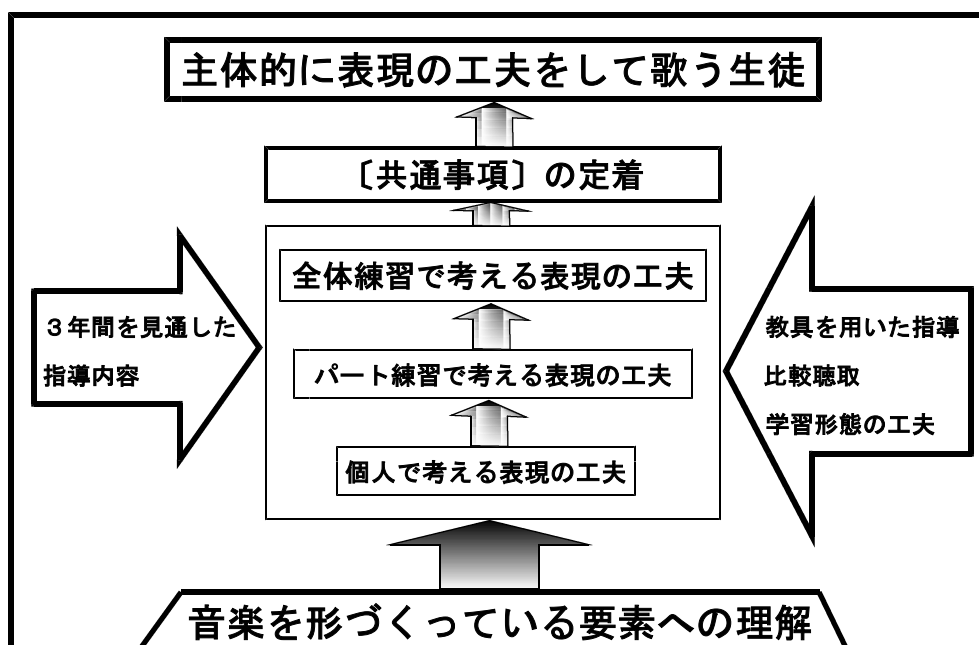
本研究で考える「主体的」とは、教師から指導されたことをそのまま歌うだけでなく、生徒が自分たちの納得する演奏を目指して歌おうとする積極的な姿勢ととらえる。

また、自分たちが納得できるまで、繰り返し歌ったり、違う歌い方を試したりしながら、曲を仕上げていこうとしている姿も「主体的」ととらえる。

イ 「表現の工夫をして歌う」とは

音楽には幾通りもの演奏方法があり、様々な工夫をして演奏すると、曲の雰囲気や感じ方に大きな違いが出てくる。その様々な工夫をする際に大きく関わるものが〔共通事項〕である。楽曲の中に含まれている音楽を形づくっている要素に気付き、それを基に作曲者の意図を解釈し、演奏者が自分なりの思いや意図をもって演奏することを「表現の工夫」と考える。

そこで本研究では、〔共通事項〕に含まれる音楽を形づくっている要素を基にして、自分なりの思いや意図をもって歌い方を考え、楽曲にふさわしい表現を求めて歌唱する姿を「表現の工夫をして歌う」と定義する。



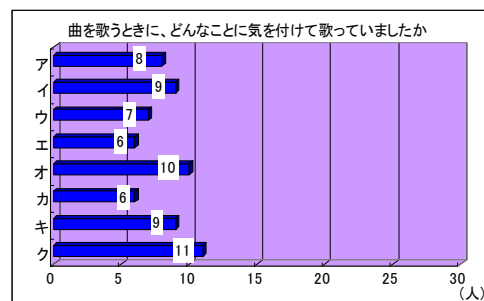
【資料1 「主体的に表現の工夫をして歌う生徒の育成」を目指した指導のイメージ図】

2 「共通事項」の認識に関する生徒の実態

「共通事項」についての研究を進めていく上で、音楽の要素に対する意識やこれまでの歌唱活動の取組状況など、小学校での実態を把握する必要があると考え、調査を行った。

質問1. 曲を歌うときに、どんなことに気を付けて歌っていましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- ア きれいな明るい声で歌おうとしていた
- イ その曲のリズムやピアノ伴奏にのって歌っていた
- ウ その曲に合った速さで歌うようにしていた
- エ 高音と低音のメロディーが重なり合うおもしろさや楽しさを感じて歌っていた
- オ その曲の雰囲気を感じて歌っていた
- カ 楽譜に書いてある強弱記号に気を付けて歌っていた
- キ 歌う表情や姿勢に気を付けて歌っていた
- ク 歌詞（言葉）に込められた思いを考えながら歌っていた
- ケ 特に何も気を付けていなかった・・・この項目を選んだ生徒が7名いた。



この他に気を付けていたことがあったら書いてください。

- ・息継ぎのタイミング
- ・口を大きく開ける
- ・友達の表情を見合いながら歌っていた
- ・気持ちを込めて歌っていた

質問2. 高音と低音にわかれて練習するときに、上手になるために友達同士でお互いに教え合いをしていましたか。 ・している・・・7名 ・していない・・・22名

質問3. 質問2で「していた」と答えた人に聞きます。どんな教え合いをしていたか、また、どんなことを友達から教えてもらったかをくわしく書いてください。

- ・もう少し声を抑えた方がいい
- ・ここはこういう意味だからこんな風に歌うといい
- ・もう少し高い声で歌った方がいい
- ・ここをもっと強く歌った方がいい

対象：大塚中学校1年4組30名（当日1名欠席） アンケートより抜粋

【資料2 生徒への実態調査結果】

【アンケートの考察】

質問 1 は、今まで要素に気を付けて歌っているかどうかを尋ねたものであるが、全体的にどの項目も半数にも満たず、要素に対する意識はあまり高いものではないということがわかった。

質問 2 では、「教え合いをしていない」生徒が 22 名という結果であった。「教え合いをしていた」7 名の生徒の記述を見ると、強弱や音程などに気を付けて歌っていたことは見えてくるが、本当に「共通事項」が音楽活動において大事なものだという意識をもって教え合いをしていないのではないのかという課題が明らかになった。

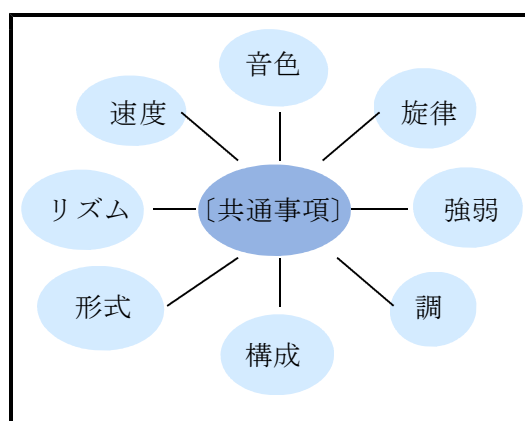
そこで本研究において、合唱の活動を通して「共通事項」の定着を図り、音楽の要素への理解を深め、活用する力を付けていく指導を進める必要がある。そのことにより、教え合いの視点を明確にもつことができるようになって、教え合いの内容が深まり、主体的に取り組む姿勢につながっていくものと考えた。

3 研究内容

(1) 「共通事項」について 3 年間を見通した指導内容の明確化

「共通事項」には、音色、速度、リズム、旋律、強弱、形式、構成、調といった音楽を形づくっている要素がある。これらの要素は、生徒が生涯のうちに会う多様な音楽を理解するための重要な窓口となり、それらを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることは音楽活動における最も基礎的な能力となる。

そこで、学習の深化を図るという点から、各学年における系統立てた指導の方針が必要であると考え、観点別評価の 4 つの観点を基に、学年ごとの指導内容を整理することとした。これにより、3 年間を見通し、一貫した指導方針の基で「共通事項」を習得し、活用力を身に付け、自ら表現の工夫を意欲的に探究していく生徒を育成していくことができると考えた。



ア 「共通事項」について 3 年間を見通した指導内容〈歌唱活動〉

	「共通事項」についての指導内容	指導によって求める生徒の姿
第 1 学年	① 「共通事項」への興味・関心をもたせる。	○ 音楽を形づくっている要素について興味・関心をもって歌唱活動に取り組んでいる。
	② 音楽を形づくっている要素の名称を覚えさせる。また、要素の働きについて理解し、その生み出す特質や雰囲気を聴き取らせる。	○ 音楽を形づくっている要素名を覚え、その働きに気付き、要素が生み出す特質や雰囲気を感知している。
	③ 楽曲の中にちりばめられた、音楽を形づくっている要素に気付かせ、表現の工夫をして歌わせる。	○ 自分たちで考えた表現の工夫をしながら楽しんで歌っている。

第2学年	① 〔共通事項〕への興味・関心を高める。	○ 興味・関心をもって、音楽を形づくっている要素に気付くことができる。
	② 音楽を形づくっている要素の名称とその働きについての理解を定着させ、活用する力を高め表現の工夫に生かすようにさせる。	○ 楽譜の中の要素に自分たちで気付くことができる。そして、音楽を形づくっている要素と関連させながら表現の工夫を考えて歌っている。
第3学年	③ 楽曲の中にちりばめられた要素をどのように工夫して歌うと、効果的になるかを考えて歌わせる。	○ 自分たちで考えた表現の工夫が、楽曲の中で効果的に生かされているか聴き取ることができる。
	① 〔共通事項〕への理解を定着させる。	○ 音楽を形づくっている要素に気付き、聴き取ることができる。
第3学年	② 音楽を形づくっている要素の名称とその働きについての理解を定着させ、活用する力を身に付けさせる。その上で、表現の工夫に生かすようにさせ、合唱の魅力を味わわせる。	○ 自分たちが伝えようとする思いを音楽を形づくっている要素に託して表現している。また、自ら表現の工夫に積極的に取り組むことで、歌唱表現を深めていく喜びを味わうことができる。
	③ 楽曲の中にちりばめられた要素をどのように工夫して歌うと、効果的になるかを考えさせ、その曲に合った歌い方で歌わせる。また、自分たちの工夫したことが要素を生かしたものになっているかを聴き取らせ、改善させる。	○ 音楽を形づくっている要素を活用して表現を工夫し、その曲にふさわしい歌い方で歌うことができる。

イ 指導案における3年間を見通した指導内容の位置付け

指導案の指導計画の中に、3年間を見通した〔共通事項〕についての指導内容を明記し、その時間でのねらいを明確にして、それを基に観点別評価の観点を設定した。

本研究における検証授業（第1学年）指導計画（全10時間）

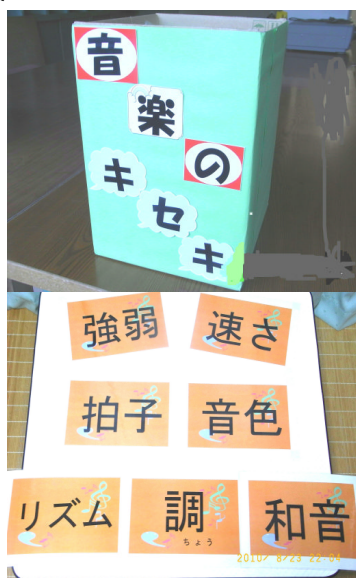
時間	学習内容及び学習活動	重点的に指導する〔共通事項〕	3年間を見通した指導内容	観点別評価の観点		
				音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	○ 音楽の要素について理解する。 ・ 比較聴取 ・ 感じ取ったこととの意見交換	強弱 速さ 拍子 音色 調 リズム 和音	① ②	音楽を形づくっている要素の働きについて、興味・関心をもっている。	曲の雰囲気の変化を感じ取っている。	
2~6	○ パート練習をする。 ・ 音取り ・ 歌い方の工夫 ・ 表現の工夫についての話し合い	リズム 音色 強弱	② ③	音楽を形づくっている要素を積極的に見つけようとしている。	「音楽のキセキBox」をヒントに音楽を形づくっている要素を活用し、曲想との関係りも考えながら、	「音楽のキセキBox」をヒントに音楽を形づくっている要素を活用した歌い方を習得して自

					歌い方の工夫をし、分のパートの旋律を歌っている。
7~10	○全体練習をする。 ・表現の工夫 ・録音聴取 ・仕上げ	強弱 調 和音 速度	③	自分たちで考えた要素に関する考えを積極的に発表している。	各パートから出された考えや意見を基にどの歌い方がこの楽曲に合っているかを考えながら、表現の工夫をしようとしている。

(2) 【共通事項】の定着を図るための教具を用いた指導の工夫

生徒は、要素について聴覚によって感じ取ることができたとしても、その名称についてすぐに何であるか判別できない実態があった。そこで、要素名のカードを作成し、常に授業の中で掲示したり、提示したりして、感じ取ったものと名称が一致できるようにした。そして、それらを〈音楽のキセキBox〉の中に入れておき、自由に生徒が授業の中で活用したり、表現の工夫における指針としたりすることで、要素への定着を図ることができるようにした。指導に当たっては、3回の検証授業で、継続して毎時間活用した。

この教具の活用により、音楽の要素が生徒の中で重要なものとして意識付けられることと、この教具を使って音楽を形づくっている要素を活用する力を高めていくことをねらいとした。



〈音楽のキセキBox〉

(3) 比較聴取を用いて音楽を形づくっている要素の理解を深める指導方法の工夫

要素が曲の雰囲気や変化に大きく関わっていることや、曲に含まれている要素の働きの理解を深めるためには、同じ楽曲について対照的な演奏で聴き比べることが必要であると考えた。そこで、1年生の段階としては、曲の中の要素に気付いて表現の工夫につなげることを目的として、次のような比較聴取を授業に取り入れた。

ア 「強い」と「弱い」、「長調」と「短調」などのように、2つの相反する要素を比較して聴く。

イ 歌い方の工夫をする前と後の演奏を聴き比べる。

ウ 練習の中で、個人やパートから出てきた意見を歌い比べる。

以上の比較聴取を行うことで、音楽を形づくっている要素の理解を深めていきたい。

(4) 音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫

主体的に表現の工夫をするためには、一人一人が楽曲への考えや思いをもつことが必要である。そこで、次のような学習形態の工夫を行った。

ア 歌い方の工夫について、要素を基にした自分なりの考えをもたせる場の設定

イ 工夫する要素について、歌いながら試していく場の設定

ウ パートで試した要素の工夫を全体練習で生かす場の設定

以上のような学習形態の工夫により、生徒が音楽を形づくっている要素を基にした自分の考えに自信をもったり、友達の考えを聞いて新しい視点に気付いたりすることで、要素を活用する力を高めていくことにつながると考えた。

4 授業実践による検証と考察

(1) 検証授業Ⅰ（大塚中学校第1学年 平成22年6月29日実施）

ア 授業設定の意図

初めて混声3部合唱を学習する第1学年の段階で、要素の名称とその働きについて理解させたいと考えた。合唱曲には様々な要素が含まれており、それらの働きを理解して表現の工夫をすることが、合唱の魅力を味わい、主体的な取組につながると考え、授業を構成した。

イ 授業のねらい

- ・ 興味・関心を高める教具を用いた指導で、〔共通事項〕についての定着を図る。
- ・ 要素の比較聴取を通して、〔共通事項〕に対する意識をもたせる。
- ・ 〔共通事項〕への興味・関心を高め、活用する力につなげていけるようにする。

ウ 授業での〔共通事項〕の指導に関する学習活動や教師の手立て

〈本時の目標〉	
○ 音楽を形づくっている要素に気付いて、その雰囲気の違いを感じ取ることができる。	
学習内容及び学習活動	指導上の留意点
3 本時の目標を確認する。	○ <u>〈音楽のキセキBox〉</u> を紹介し学習への興味をもたせるようにする。
展 開	音楽がつくられている要素に気付いて、それぞれの違いを感じ取ろう。
	4 音楽を形づくっている要素を比較して聴き、その違いを感じ取る。 ・ <u>要素ごとに、比較聴取する（強弱、速さ、拍子、音色、調、リズム、和音）</u>
	○ <u>違いをわかりやすく聴き取らせるために、「メリーさんの羊」の曲を用いることで、よく知っている曲がどのように変わっていくのかをわかりやすくさせる。</u>

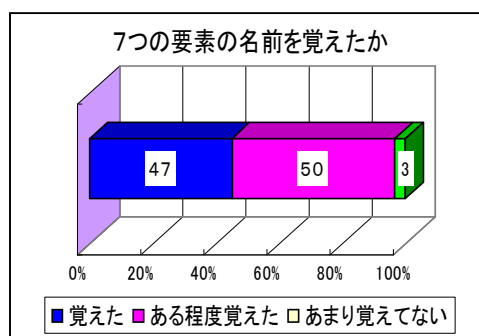
〔共通事項〕への興味・関心を高める教具の提示

比較聴取させ、〔共通事項〕への意識をもたせる手立て

エ 授業の分析と考察

(7) 「共通事項」の定着を図るための教具を用いた指導の工夫

〈音楽のキセキBox〉を使って、要素を一つずつ取り出して提示していくことで、7つの要素名を視覚的に印象付けることができた。授業後のアンケートでは、「ある程度覚えた」生徒も含めると、ほとんどの生徒が要素名を「覚えた」と答えており、この教具を用いた指導により、要素の名称の定着を図ることができた。



【資料3 要素の定着度】

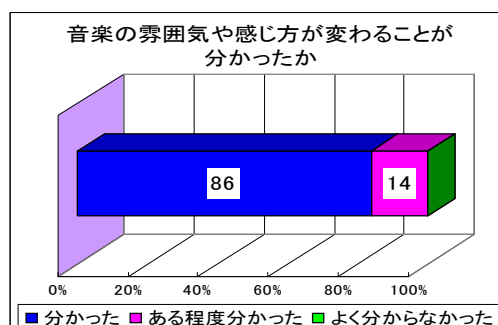
(4) 比較聴取を用いて音楽を形づくっている要素の理解を深める指導方法の工夫

7つの要素を「速い・遅い」「強い・弱い」などの対照的な形で用いて【楽譜1】の曲を変化させて比較聴取を行い、要素による曲の雰囲気や感じ方の違いをわかりやすく聴き取ることができるようにした。



【楽譜1 「メリーさんの羊」】

まず、比較聴取から自分が感じたことなどを書かせた後、隣同士で意見交換させ、自分と同じ考えや自分の気付かなかった考えに触れることで、要素による曲の変化に気付くことができた。



【資料4 要素による曲の雰囲気や感じ方の違いへの理解】

その結果、要素によって曲の雰囲気や感じ方が変わることがわかり、〔共通事項〕への理解を深めることにつながった。また授業後の生徒の感想からは、要素に対する興味・関心が高まり、音楽活動において要素が大切なものであることに気付いたことがうかがえた。

授業後の生徒の感想
- 要素に気を付けながら歌っていきたくて思った。 - いろんな要素を習ったので、<u>1回でもいいから使ってみたい。</u> 7つの要素を考えながら歌うだけでこんなに変わるとは思わなかった。<u>これからは7つの要素のことを考えながら歌いたい。</u>

(2) 検証授業Ⅱ（大塚中学校第1学年 平成22年9月27日実施）

ア 授業設定の意図

要素によって歌い方の工夫をする前と後の演奏の比較聴取を行い、検証授業Ⅰで学習した〔共通事項〕への意識をさらに高めていくこととした。

また、要素を活用する力を高めていくために、一人一人が要素を基にした考えをもって、それをパートで出し合い、歌い合いながら練習を進めることにした。

イ 授業のねらい

- ・ 「共通事項」の定着を図り、要素への意識を高める。
- ・ 要素を基に工夫した演奏の比較聴取を通して「共通事項」の働きを理解させる。

ウ 授業での「共通事項」の指導に関する学習活動や教師の手立て

〈本時の目標〉		○ 音楽をつくっている要素を使って、自分のパートの旋律を工夫して歌おう。	
	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	
導入	2 <u>音楽の要素を使った表現の工夫の例を知る。</u>	○ <u>ビデオに録音していた生徒の歌い方と「リズム」と「音色」を意識した教師の歌い方とを比較させ、音楽の要素により、歌い方が変わることを実感としてとらえさせる。</u>	「共通事項」の定着を図る手立て
	5 <u>歌い方の工夫をする前の演奏を聴き合う。</u>	○ <u>歌い方の工夫をする前の演奏をお互いに聴き合い、工夫した後の演奏と比較させる。</u>	「共通事項」への理解を深めるための手立て
展開	6 パート練習をする。	○ <u>出てきた意見を実際に歌って比較しながら、どのような歌い方がふさわしいかを追究させる。</u>	「共通事項」を活用するための学習形態の工夫
	7 <u>歌い方の工夫をした後の演奏を聴き合う。</u>	○ <u>他のパートの工夫点について共感させたり、新しい視点に気付かせたりして、音楽の要素への理解を深めさせる。</u>	「共通事項」への理解を深めるための手立て
まとめ	・ 最初の演奏と比較して評価を行い、発表する。		

エ 授業の分析と考察

(7) 「共通事項」の定着を図るための教具を用いた指導の工夫

検証授業Ⅰで学習した7つの要素のカードを提示し、その働きについて復習した。そしてその後、それらの要素を使って生徒が考えた歌い方の工夫を〈音楽のキセキBox〉に挿入し、それが歌い方の工夫をする際のヒントとなっていくようにした。

1回目の「5拍目のあとの「1」を大切に	1音1音をなめらかに	笑顔で歌う	はずむように歌う	1つ1つ間をぬく
2回目の「5拍目は軽いX-ジで	「X-ジ」をはやく歌いすぎない	1つ1つの音に気をつけて歌う	やさしく歌う	とぎれないようにやさしくなめらかに歌う
3連符の1音1音を大切に	歌詞をつかまえて歌う	3連符を意識する	はっきり歌う	上がったリが利するときに気をつけて歌う

【資料5 要素を基に考え出された歌い方の工夫】

(イ) 比較聴取を用いて音楽を形づくっている要素の理解を深める指導方法の工夫

要素を基にした歌い方の工夫をする前と後の演奏の比較聴取を行った。今回は、変化が一番聴き取りやすい【楽譜 2】の部分の表現の工夫に取り組んだ。聴く視点をその部分に大きく関わる「リズム」と「音色」に絞って聴かせたことで、生徒は演奏の変化に気づきやすくなり、要素を基にして工夫することによって、演奏が変わるということを実感をもって聴き取ることができていた。



【楽譜 2 「マイバラード」より】

パート練習前	
パート名	① 「リズム」と「音色」について
テール	①はずんだ感じが少ししかなかった。 テールからがうした声だった。

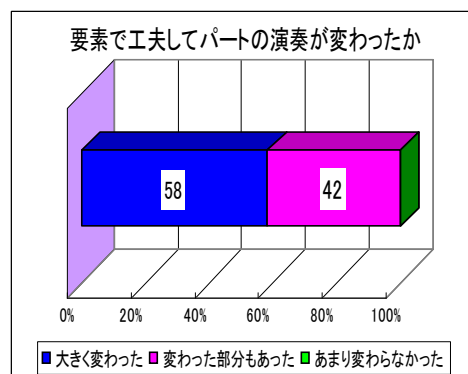
「リズム」と「音色」それぞれの要素の特徴をつかんでいる。

パート練習後	
パート名	いなり ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 他の人 にキセキは起き
テール	歌い方に变化があったか？ (いずれかに○を付ける) (○) 大きく変化していた () 変わっている部分もあった () あまり変わっていなかった

具体的な演奏の変化をとらえている。

例えば、上記のように、練習前には「音色」について「ガラガラした声だった」と感じているが、演奏後には「一音一音を大切に歌っていた」と要素を基に工夫した演奏の変化に気づくことができています。

また、授業後のアンケートからも、演奏が変わったことを聴き取ることができているという結果であった。その理由として、以下のような記述が見られ、演奏の変化が要素を基にしたものであるということを理解して感じ取ったことがわかった。これらのことから、工夫する前と後の演奏を比較聴取する手立てにより、演奏の変化を聴き取ることができたと考える。



【資料 6 要素による演奏の変化の聴き取り】

演奏が変わったと思った理由
「リズム」と「音色」を使って歌い方を工夫したから。 - 前回より声が大きくなっていて、リズムにもものっていたから。 - みんなが要素に気を付けて歌えたから。 「リズム」と「音色」を使ってみんなが考えた意見を使って歌うことができたから。

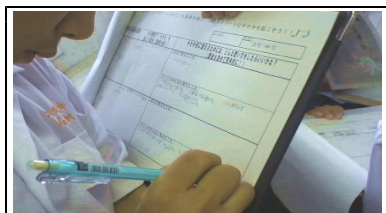
(ウ) 音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫

パート練習において一人一人が主体的に取り組めるように、まず個人で「リズム」と「音色」を基にした歌い方の工夫を考える場の設定を行い、自分なりの考えをもたせた後、パート練習に臨ませた。パート練習ではそれぞれの意見を出し合い、どの歌い方がふさわしいのかを歌って確かめながら考えさせた。【資料7】のように個人の考えがパート練習で生かされ、さらに深まった考えとして記述されていることから、一人一人が要素を基にした考えをもってパート練習に生かしていくという学習形態は有効であった。



《個人で歌い方の工夫を考える様子》

自分が考えた工夫
 のう連符でつながっている音をきらずに他との区別をつける
 の2回目の「うたか」を前後の3連符とは違うリズムで歌う

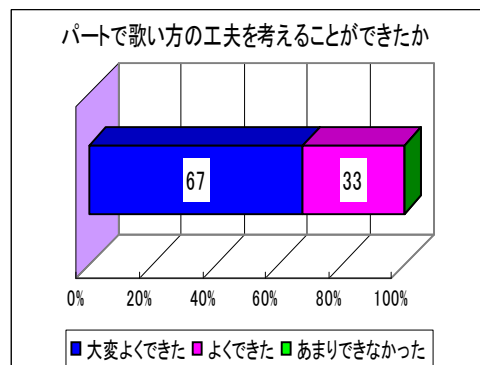


《パート練習で考えた工夫を記録する様子》

パートのみんなと考えた工夫
 01回目の「うたか」の後の休符を大事にする
 02回目の「うたか」をいいイメージで
 03連符の1音1息を大事に

【資料7 生徒が考えた工夫の一例】

さらに、ほとんどの生徒がパート練習により歌い方の工夫を考えることができたという結果が得られた。「意見の通りに練習したら歌が何倍もよくなった」「みんなで話し合ってみると、よくした方がいいという点がたくさん出てきた」といった感想が聞かれたことから、個人から小集団へと考えを広げていく中で、要素を活用していく力が高まっていたと考える。



【資料8 パート練習の成果】

(3) 検証授業Ⅲ（大塚中学校第1学年 平成22年10月19日実施）

ア 授業設定の意図

検証授業Ⅰ・Ⅱで学習してきた〔共通事項〕を全体練習の中で活用していく授業を行った。今回は、要素が多く含まれており、工夫した後の変化がわかりやすい部分を取り上げ、表現の工夫を行った。自分たちで出し合った意見を歌って確かめながら、納得できる演奏を追究していくように進めることにした。

イ 授業のねらい

- ・ 音楽を形づくっている要素を活用する力を高める。
- ・ 音楽を形づくっている要素を基にした歌い方の工夫に主体的に取り組ませる。

ウ 授業での〔共通事項〕の指導に関する学習活動や教師の手立て

〈本時の目標〉		
○ 4組らしい「マイバラード」にするために、歌い方の工夫を考えて歌おう。		
	学習内容及び学習活動	指導上の留意点
導入	1 前時の学習を振り返る。 ・ 「リズム」と「音色」の要素を使って歌い方の工夫をしたことを確認する。	○ 前回パートごとに考えた歌い方の工夫を <u>〈音楽のキセキBox〉を用いて振り返らせ、賞賛しながら本時の意欲へとつなげる。</u>
	3 <u>全体練習で「とどけあいのメッセージ」の部分の表現の工夫をする。</u>	○ <u>自分たちで出し合った意見を歌いながら確かめさせ、歌い方の工夫を習得し、演奏できるまで意見を出させる。</u>
展開	4 <u>録音して、演奏が変化しているかを聴く。</u>	○ <u>自分たちの工夫したことが演奏の中に生きているかを聴かせることで、表現の工夫を深めさせる手立てとする。</u>

〔共通事項〕
の定着を図る
手立て

〔共通事項〕を
活用するための
学習形態の工夫

〔共通事項〕を
活用するための
学習形態の工夫

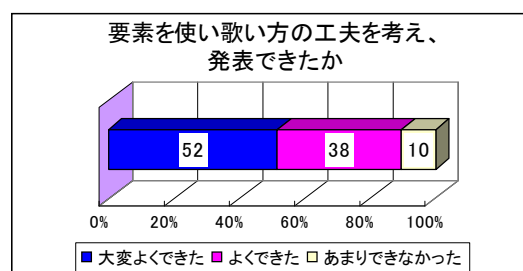
エ 授業の分析と考察

(7) 〔共通事項〕の定着を図るための教具を用いた指導の工夫

〈音楽のキセキBox〉を引き続き活用して、その中に含まれる要素を使って歌い方の工夫をさせるようにした。【資料9】は、〈音楽のキセキBox〉から取り出した要素を基に、生徒が歌い方の工夫を考えている過程の板書の一部である。掲示されている要素は、生徒が工夫をしたい部分に使うと演奏が変わるのではないかと考え、〈音楽のキセキBox〉から取り出したものである。例えば、強弱にも様々なものがあり、生徒は自分たちが求める歌い方にふさわしい要素はどれなのかを考えていた。その際、自分たちの考えに自信がもてなかったり、様々な意見が出てきたときには、〈音楽のキセキBox〉を示し、要素を基にして考えてい



【資料9 歌い方の工夫を考えた板書】

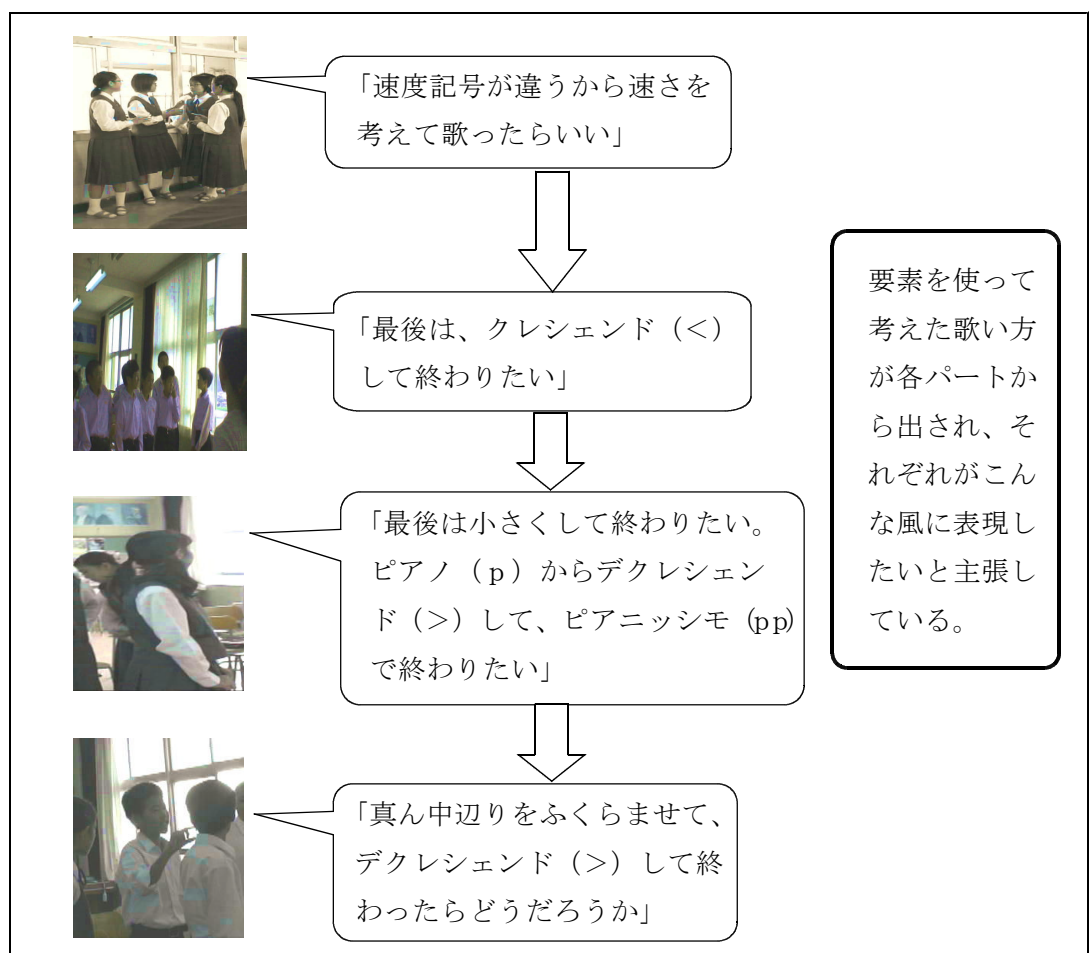


【資料10 要素を活用して工夫したことを発表する活動】

くことを確認させた。生徒は、楽譜から様々な曲想を見つけ出し、要素と照らし合わせながら歌い方を考えるようになった。また、多くの生徒が要素を基にした考えを発表できたと評価していることから、〔共通事項〕の定着が図られたと考える。

(イ) 音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫

要素を意識せずに、全体でただ合わせて歌う練習ではなく、今回はどの要素を用いれば演奏が変わるだろうかということを生徒自身に考えさせ、それを全体場で出し合って、意見を交わし合い、歌い合いながら練習を進める形態をとった。出てきた意見は実際に歌って確かめて、自分たちが納得できなければ再度考え直すようにした。授業では【資料1 1】のように、男子と女子の意見がわかれ、お互いに「こういう風に歌いたい」という思いがあり、何度も歌いながら確かめて練習する姿が見られた。今まで一貫して音楽の要素を基にした授業を進めてきたことで、生徒は自分の考えに自信をもって主張できるようになったと思われる。自分たちの演奏を客観的に聴き、表現の工夫に生かすために録音を行ったが、1回だけの録音だったので、さらに回数を重ねれば表現の工夫に生かすことができたのではないかと考える。



【資料1 1 全体練習で意見を交わし合う様子】

5 研究内容の分析と考察

(1) 〔共通事項〕について3年間を見通した指導内容の明確化について

第1学年の〔共通事項〕についての指導内容を基に、次のように評価方法を定め、指導案の中の評価の視点につなげていった。これにより、評価と指導内容を一体化することが〔共通事項〕についての指導内容を明確にした指導につながると考えたためである。

〈検証授業Ⅲにおける指導内容と評価のつながり〉

【共通事項】についての指導内容	
第1学年	① 【共通事項】への興味・関心をもたせる。
	② 音楽を形づくっている要素の名称を覚えさせる。また、その働きについて理解し、その生み出す特質や雰囲気を聴き取らせる。
	③ 楽曲の中にちりばめられた、音楽を形づくっている要素に気付かせ、表現の工夫をして歌わせる。

この指導内容を基に
観点別評価の観点を作成

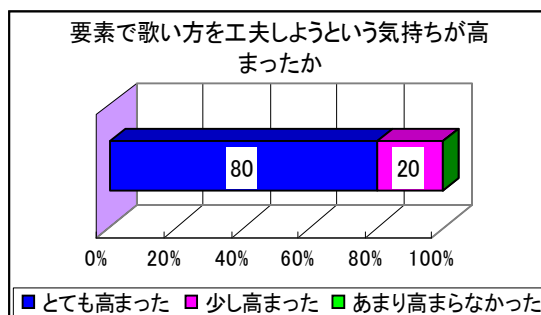
〈指導計画〉

学習内容	重点的に指導する 〔共通事項〕	3年間 を見通した指導内容	観点別評価の観点		
			音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能
○ 全体練習をする。 ・ 表現の工夫 ・ 録音聴取 ・ 仕上げ	強弱 調和音 速度	③	自分たちで考えた要素に関する考えを積極的に発表している。	各パートから出された考えや意見を基にどの歌い方がこの楽曲に合っているかを考えながら、表現の工夫をしようとしている。	歌詞や曲想と、音楽を形づくっている要素との関わりを考えた歌い方を習得して、歌うことができる。

〈指導案〉

学習内容及び 学習活動	指導上の留意点	評価の視点
3 全体練習で「とどけあいのメッセージ」の部分の表現の工夫をする。	○ 音楽の要素を基に考えさせることで要素を活用する力を定着させる。 ○ 生徒から出た意見を基に考えが広がっていくように、板書をして視覚でとらえるようにする。 ○ 自分たちで出し合った意見を歌いながら確かめさせ、歌い方の工夫を習得し、演奏できるまで意見を出させる。	音楽の要素を基に、歌い方の工夫を考えて表現することができた。 観点別評価の観点の「音楽表現の技能」から本時の評価の視点を定めた。

このように、3年間を見通した指導内容を指導計画に位置付け、それに基づいた評価の視点を設定することにより、教師が常に〔共通事項〕の指導内容をポイントにもちながら指導の工夫を行うことができた。また、授業後の生徒の記述からも、要素に対する意識の変化が見られ、生徒が自ら工夫しようという気持ちを高めることができた。



【資料1 2 生徒が自ら工夫しようとする気持ちの高まり】

- ・ 今まで「音楽の要素」に注意していなかったの、注意すればこんなによくなるんだと思いました。
- ・ 「音楽の要素」を使って歌えば、普通に歌ったときよりもかなり違うことが分かった。
- ・ 今まででは歌っていても、あんまり何も意識して歌っていなかったけど、「音楽の要素」を考えて歌うと曲の雰囲気とかが変わっておもしろいなと思いました。
- ・ 自分たちで工夫して、自分たちでつくって、自分たちで歌うのはとても楽しかったです。これからも要素を思い出して歌いたいと思います。

演奏を変化させるために要素が必要なものであるという意識の変化が見られる。

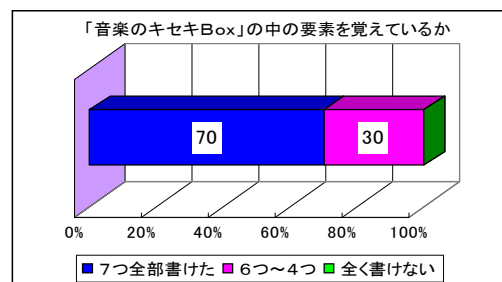
〔共通事項〕を活用し、自ら表現の工夫ができたという達成感を味わっている。

学習指導要領では、〔共通事項〕は単独で取り上げるべきではないと明記されてあるが、今回、中学校の音楽活動の入口として〔共通事項〕とは何かということについて学習したことで、要素を基にした考えをもち、要素を活用して歌い方の工夫をすることにつながった。

以上のことから、3年間を見通した指導内容を明確にして指導を行うことは有効であったと考える。

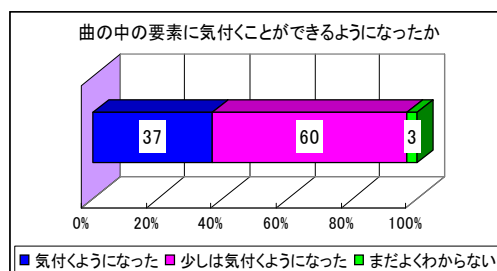
(2) 〔共通事項〕の定着を図るための教具を用いた指導の工夫について

教具を用いて〔共通事項〕を定着させる指導の工夫を行った結果、3回の検証授業後の調査で、9割の生徒が7つの要素名を正しく書くことができた。このことにより、要素名の定着は図られたと考える。また、ほとんどの生徒は曲の中の要素に気付くことができるようになったと答えていた。



【資料1 3 要素名の定着度】

下記のように、要素が音楽活動を行う上で大事なものであるという意識の変化がわかる生徒の感想や、これらの要素を使って練習しながら学習に取り組んでいたことがわかる具体的な記述も見られたことから、教具を用いた指導を行ったことにより、〔共通事項〕の定着を図ることができた。



【資料 1 4 要素への気付き】

この中に入っていた要素を使うだけで4組の歌い方がすごく変わりました。
要素はとても大切なものなんだと思いました。

「音楽の要素」の1つでも歌い方を工夫すればよくなるんだなあと思いました。

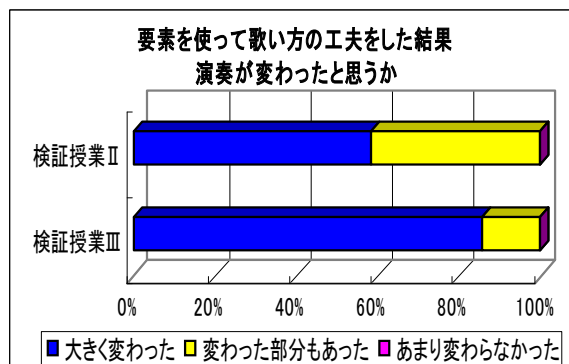
具体的な要素名を使って、歌い方を考えている。

和音 だったら最後のハーモニーの所の音取りを重心的にや、て気をつけるように注意したりした。
「調」なら音の変わる所を何回も練習した。
「速さ」は伴奏を弾いてゆっくりなる場所を教えたりした。

【資料 1 5 3回の検証授業後の生徒の記述】

(3) 比較聴取を用いて音楽を形づくっている要素の理解を深める指導方法の工夫について

検証授業Ⅰでは、要素の対照的な形での比較聴取、検証授業Ⅱでは、要素により表現の工夫をする前と後の演奏においての比較聴取、検証授業Ⅲでは、様々な表現の工夫を歌い比べ聴き合う練習を行った。その結果、検証授業ⅡからⅢにおいて、「演奏が変わった」と感じている生徒が8割以上に増加した。これは、比較聴取により、要素への意識が高まり、要素が演奏を大きく変化させることを理解したためと考える。



【資料 1 6 演奏の変化への気付き】

また、生徒の記述から、自分たちで比較聴取を取り入れて練習をしたことがうかがえた。

要素を基にして <u>歌い方を比べながら</u> よい歌をつくること	一度歌って、 <u>変えた方が</u> いいところは変えて、の繰り返しを何回もして練習した。	一人一人がよく考え、「 <u>ここをこうするともっといいんじゃない</u> 」というふうにして歌い方を工夫しました。そして工夫した部分を何回も歌いました。
------------------------------------	--	---

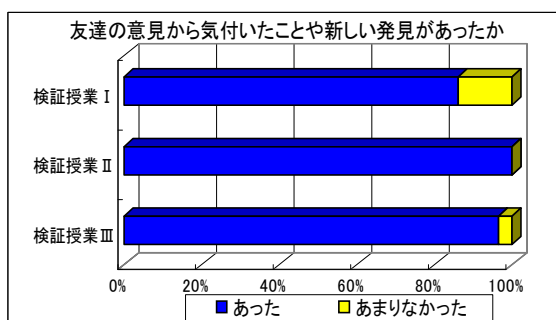
【資料 1 7 3回の検証授業後の生徒の記述】

このことから、比較聴取の指導を授業に取り入れたことは、音楽を形づくっている要素への理解を深めていくことに有効な手立てとなることがわかった。

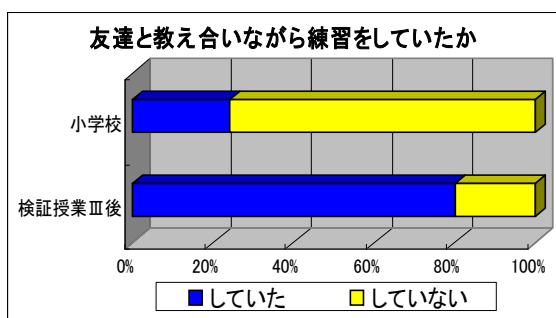
(4) 音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫について

個人からパートへ、そして全体へという流れでの練習の中で、まず個人で考える時間の設定を行い、要素を基にどのような表現の工夫ができるかを考えさせた。そして、個人の意見をパート練習へ生かすようにし、パート練習で考えたことを全体練習に生かしていくという学習形態の工夫により、要素に対する理解が深まり、活用する力が付いていったと考えられる。

【資料18】からは、お互いの考えを出し合い、歌って確かめながら進めていくことにより、友達の見解から気付いたことが多くあったことがわかった。特にパート練習が中心となった検証授業Ⅱでは全員の生徒が「気付いたことや新しい発見があった」と答えていた。小学校でのアンケート結果と比べてみると、教え合いの練習の割合が大幅に増えていた。また、生徒の意見からも、要素を基にする大切さや、要素を使って練習するよさを理解している感想もあり、お互いの考えを出し合いながら練習を進めていく形態は有効であった。



【資料18 友達の意見からの気づきや発見】



【資料19 教え合いの練習の変化】

まず、どこ、どんな要素をつけたらえはいいかの意見を出し、その部分だけ練習しました。

強弱のところや速さなどをパートのみんなで見つかることができました。

強弱の強め方、弱め方を周りの人と教え合って高めていくことができました。

パート内でどこにどの要素を入れたらどのような歌になるかを話し合うことができました。

みんなの意見を聞くことと自分とは違う考えを知り、教え合うこともできました。

要素が練習の中で使われていることがわかる。

要素を基にして話し合っ工夫しようとした姿が見られる。

自分にはなかった視点に気付いたことがわかる。

【資料20 3回の検証授業後の生徒の記述】

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

- 「共通事項」を根拠にした合唱の指導を展開することにより、音楽を形づくっている要素に対する意識が高まり、生徒自らが要素を活用して表現の工夫に取り組むことができた。
- 教具を用いた指導の工夫により、「共通事項」の定着を図ることができ、それにより音楽を形づくっている要素を基にした歌い方の工夫を考えることができるようになった。
- 比較聴取する手立ては、生徒に音楽を形づくっている要素による曲の変化に気付かせることができ、さらに要素への理解を深めることができた。
- 音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫を通して、生徒は自分の考えに自信をもつことができたり、自分にはなかった新しい視点からの考えに気付くことができたりしたことで、要素を活用する力を高めることができた。
- 「共通事項」について、3年間を見通した指導内容に沿って指導に当たることで、ねらいを明確にした授業を進めることができ、学年の発達段階に応じた系統的な指導をすることができた。

2 課題

- 今回は、1年生のみを対象とした検証授業であったが、今後2・3年生の指導においても「「共通事項」について3年間を見通した指導内容」の系統的な指導を実践し、この指導内容を検証していく必要がある。
- 教具を用いた指導の工夫を行ったが、今後も引き続き教具の工夫を行い、要素に対する意識を高め、表現の工夫に活用できるものにしていく必要がある。
- 音楽を形づくっている要素を活用するための学習形態の工夫の中で、個人の思いや歌い方の工夫を考える時間を十分に確保したり、多様な個人の意見を生かしたパートや全体練習の工夫をしたりすることで、要素への理解や活用する力をさらに高めていく。

《参考文献》

- 文部科学省（2008.9）「中学校学習指導要領解説 音楽編」教育芸術社
- 藤沢章彦編著（2008.12）「新学習指導要領ガイドブック ポイントと事例」教育芸術社
- 川池聡執筆（2008.11）「移行期用資料 「共通事項」の指導について 中学校版」教育芸術社
- 西園芳信監修（2009.8）「中学校音楽科の授業と学力育成 - 生成の原理による授業デザイン - 」
廣済堂あかつき
- 小島律子著（2010.4）「新設「共通事項」の意義と扱いについて」教室の窓「教育情報」Vol. 30
- 寺田尚代執筆（2009）平成21年度熊本県立教育センター研究紀要第38集「思考力、判断力、
表現力を高めるための小学校音楽科授業の工夫・改善～言語活動による
「共通事項」の指導を通して～」
- J A S L A C <http://j-takt.jasrac.or.jp>